

# 国府宮駅周辺再整備基本計画(案)

令和8年3月

稲 沢 市

# 目次

## 第1章 目的と位置づけ

1-1 目的	1
1-2 位置づけ	2
1-3 国府宮駅周辺再整備の基本的方向性	3

## 第2章 対象区域の設定

2-1 国府宮駅周辺の状況	5
2-2 本計画の対象区域	6

## 第3章 喫緊のまちづくり課題の整理

3-1 近年の社会経済情勢変化	
(1) 人口減少、少子高齢化の進行	7
(2) コロナ禍を契機とした生活行動の変化	8
(3) 物価高騰等に伴う建設コストの上昇	8
3-2 国府宮駅周辺の状況変化	
(1) 人口動向	9
(2) 交通状況	10
(3) 土地利用	11
3-3 市民の声	12
3-4 喫緊のまちづくり課題の整理	13

## 第4章 目指すべき「まちの将来像」

4-1 「エリアの分類」と「軸の設定」	14
4-2 まちの将来像	15
4-3 まちづくりの進め方	21

# 第1章

## 目的と位置づけ

### 1—1 目的

名古屋駅から約10分とアクセス利便性の高い名鉄国府宮駅（以下「国府宮駅」という。）は、JR稲沢駅と並ぶ本市の都市拠点であり、2018年度（平成30年度）からスタートした本市の最上位計画である「稲沢市ステージアッププラン」（第6次稲沢市総合計画）では、リニア中央新幹線開業後の新たな時代に向けて、国府宮駅周辺の再整備に取り組むことを重点戦略の1つに掲げています。

こうした位置づけのもと、本市では2018年度（平成30年度）に、国府宮駅周辺再整備の「長期ビジョン（コンセプト及び基本方針）」及び「短期ビジョン（長期ビジョンを具体化していくための先導的な取組み）」を示した「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」を策定し、2019年度（令和元年度）に策定した「国府宮駅周辺再開発基本計画」では、短期ビジョンの実現に向けたより具体的な再整備の考え方を明らかにしました。

しかしながら、その後、人々の意識や価値観、行動に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症の流行や建設資材の高騰・労働力不足等による建設コストの大幅な上昇など、我が国を取り巻く社会経済情勢が大きく変化するとともに、国府宮駅周辺においても、2022年度（令和4年度）に鉄道高架化の方針が一時凍結となり、総合文化センターでは跡地活用に向けた検討が進むなど、状況の変化が見られます。

こうした変化を踏まえ、本市では「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」で示した「長期ビジョン（コンセプト及び基本方針）」については保持しつつ、その実現に向けた短期ビジョンや再整備の考え方を見直す必要があると判断し、新たに「国府宮駅周辺再整備基本計画」（以下「本計画」という。）を策定することとしました。

## 1-2 位置づけ

本計画は、2018年度（平成30年度）に策定した「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」で示した「長期ビジョン（コンセプト及び基本方針）」の実現に向けた再整備の考え方等を示すものであり、上位計画である「稲沢市ステージアッププラン（稲沢市総合計画）」や「稲沢市都市計画マスタープラン」等と整合・連携を図りつつ策定するものです。

### 稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

稲沢市の「人口ビジョン」を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるための目標や施策をまとめたもの

- 「市のポテンシャルを生かした定住の推進」を基本目標の一つに掲げ、その達成に向けて「名鉄国府宮駅周辺の再整備」に取り組むこととしています



### 稲沢市ステージアッププラン（稲沢市総合計画）

市政全般の基本的な方針を示した、市の最上位計画

- 重点戦略である「攻め」と「守り」の定住促進を実現するための取組みの一つとして、「名鉄国府宮駅周辺の再整備」を掲げています



### 稲沢市都市計画マスタープラン

稲沢市の都市計画の総合的な方針であり、具体的なまちづくり方針等を明らかにしたもの

- 国府宮駅周辺を都市中心拠点と位置づけ、まちなか居住の促進や交通結節機能を強化する方針を定めています



### 国府宮駅周辺再整備に関する個別計画

#### 国府宮駅周辺まちづくり基本計画（2018年度）

- 国府宮駅周辺再整備の基本的方向性（長期ビジョン）
- 喫緊の課題に対応する先導的な取組み（短期ビジョン）

#### 国府宮駅周辺再開発基本計画（2019年度）

短期ビジョンの実現に向けたより具体的な再整備の考え方

社会経済情勢の変化

改編

国府宮駅周辺の状況変化

国府宮駅周辺再整備基本計画

## 1—3 国府宮駅周辺再整備の基本的方向性

2018年度（平成30年度）に策定した「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」では、国府宮駅周辺再整備の基本的方向性（長期ビジョン）として、「まちづくりコンセプト」と「まちづくり基本方針」を以下のように定めています。

### (1)まちづくりコンセプト

#### 稲沢市が居住地として選ばれ続けるために…

#### 『大都市名古屋のすぐそばで、

#### 緑と歴史を身近に感じられるまち・国府宮』

- ☞ 名古屋駅まで10分・名古屋駅から10分という便利さを活かしつつ、多様なニーズに対応した居住の場や雇用の場、充実した生活利便施設が便利な暮らし・多彩な生活スタイルを支えます。
- ☞ そして、緑豊かで歴史・文化を感じられる街並みがワンランク上の質の高い暮らしを演出します。
- ☞ このように「国府宮」地区の魅力を高めることで、稲沢市が居住地（住む場）・従業地（働く場）として選ばれ続ける都市となることを目指していきます。

### (2)まちづくり基本方針

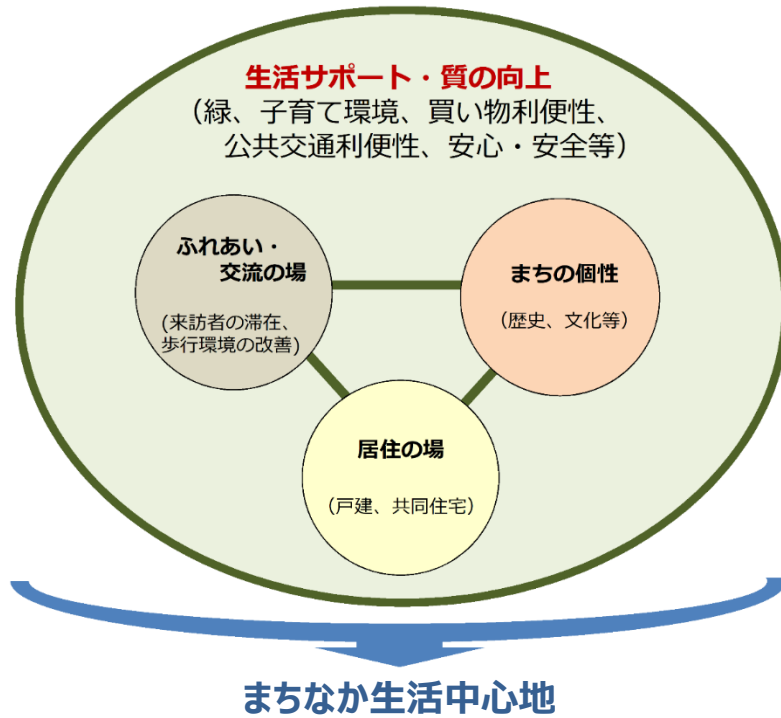
◎本市が**居住都市として選ばれる都市**とするために、名古屋へのアクセス利便性に特に優れ、本市の**玄関口**であり**都市全体のイメージを象徴する国府宮駅前**において、**居住の場の確保**とともに、居住都市として**魅力アップのために必要な要素（生活サポート・質の向上）を備えたまちづくり**を展開します。

◎さらに、にぎわいと活力に満ちた都市とするために、**玄関口として多くの人が集う国府宮駅前**において、**ふれあい・交流の場の確保**を進めるとともに、**駅東西の市街地が一体となり、歩いてまちの魅力を楽しめるまちづくり**を展開します。

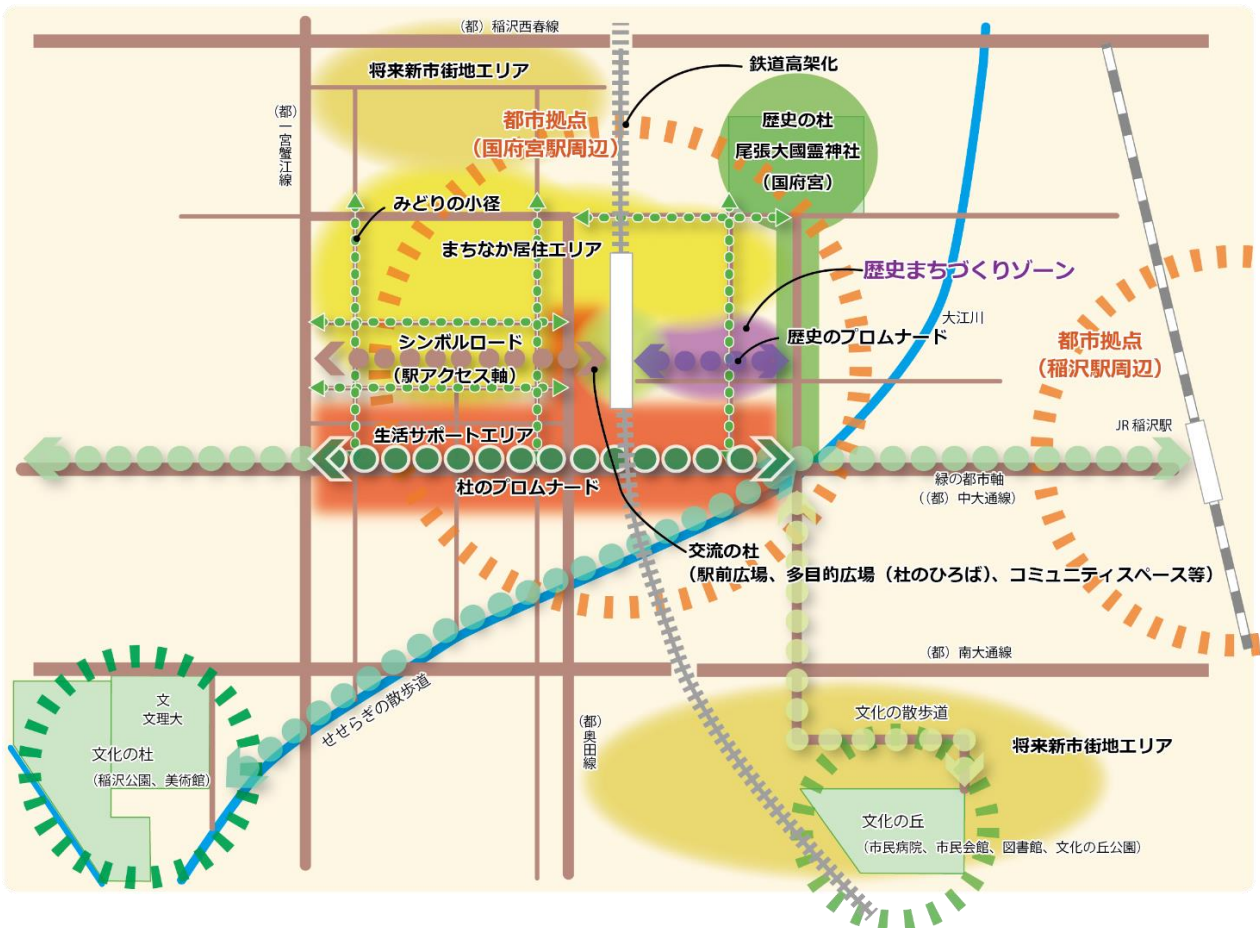
◎また、「国府宮駅周辺の課題」への対応として、本地区の最大の強みである**「公共交通利便性」の活用・充実**、住む人が永く住み続けることができる・住み続けたいくなるような**「安心・安全」の確保**を図ります。

◎あわせて、本市が**いつまでも暮らし続けたい都市**となるために、まちへの誇りや愛着心を育む**「まちの個性」づくり（地域固有の歴史や文化等を活かしたまちづくり）**を展開します。

**国府宮駅東西の市街地が一体となり、  
歩いて暮らしやすい、にぎわいと活気生まれる  
“まちなか生活中心地”づくり**



(参考) まちづくりの展開イメージ (2018年度「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」より)



## 第2章

# 対象区域の設定

「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」で定めた「長期ビジョン（コンセプト及び基本方針）」を踏まえつつ、国府宮駅周辺で進捗しているまちづくりの状況、歴史的・文化的資源の立地等を総合的に考慮して、本計画の対象区域を設定します。

### 2-1 国府宮駅周辺の状況

#### 【新たな住居系市街地の整備】

- 国府宮駅から概ね 500m北に位置する「稲島東地区」及び概ね 500m南に位置する「高御堂南地区」は、名古屋駅への高いアクセス利便性を生かした新たな宅地供給を図る「住居系新市街地ゾーン」に位置づけられています。現在「高御堂南地区」では、土地区画整理事業の実施に向けた取組みが進捗しています。

#### 【総合文化センター等跡地活用事業】

- 国府宮駅から概ね 250m 東に位置する「稲沢市総合文化センター」は、建築後 50 年以上が経過し、老朽化や耐震性への課題があったことから建物を解体し、現在は跡地活用に向けた検討が進められています。2025 年（令和 7 年）2 月に本市が策定した基本構想では、従前の公共機能に加え、新たに子育て支援機能等の導入を検討することとしています。

#### 【尾張大國霊神社(国府宮)】

- 国府宮駅から概ね 350m 北東に位置する「尾張大國霊神社（国府宮）」は、尾張地方の総鎮守神、農商業守護神、厄除神として広く信仰されています。県の無形民俗文化財にも指定されている「はだか祭り（なおいしんじ 簀追神事）」を始め、参道で開催される稲沢まつりや植木まつりなど、年間を通して様々な祭礼やイベントが開催されています。コロナ禍で減少した利用者数（観光入込客数）は近年回復傾向にあり、2024 年（令和 6 年）には 150 万人/年に達しています。



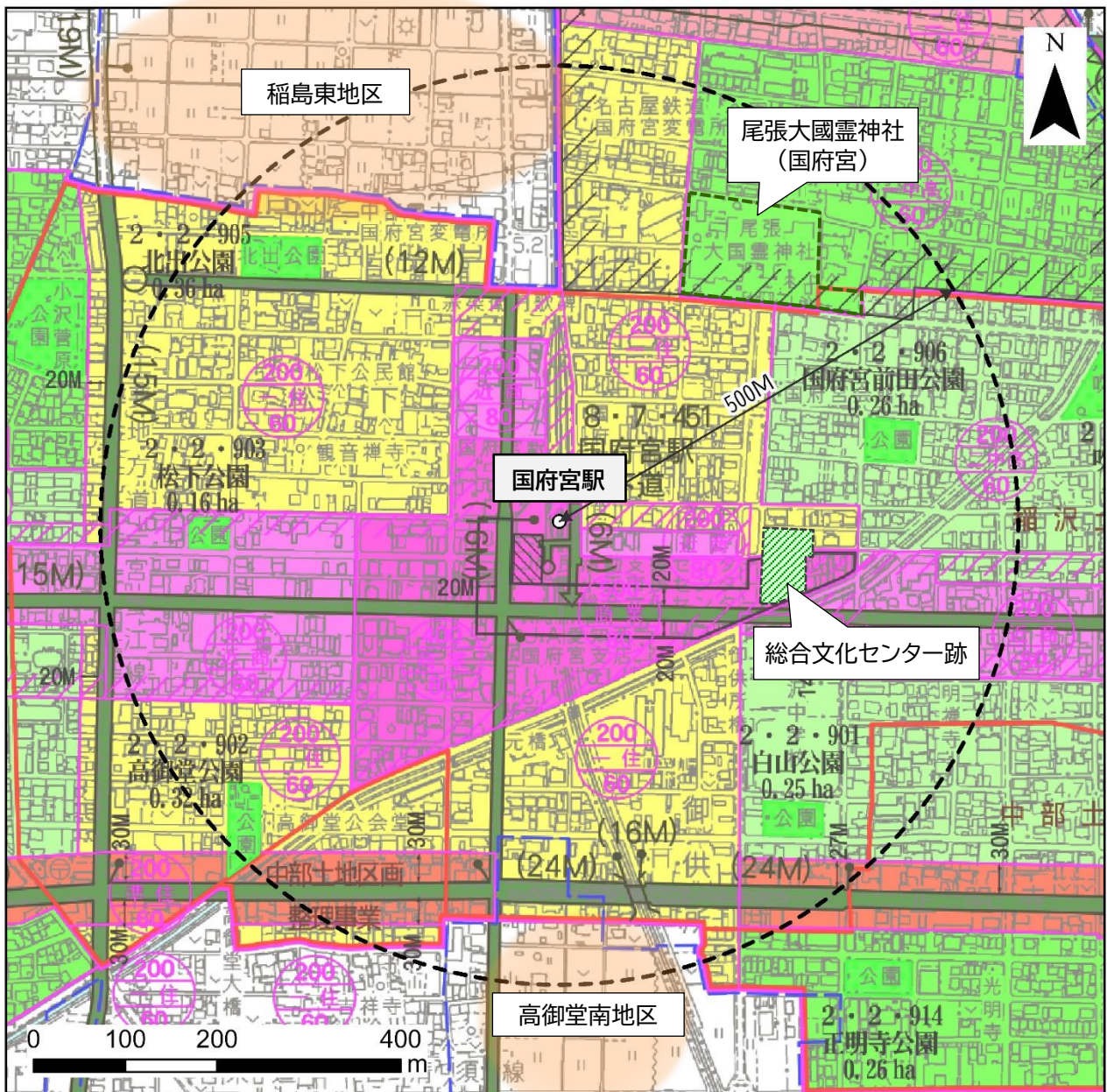
はだか祭りの様子

(上)国府宮拝殿 (下)参道で開催される植木まつり

## 2-2 本計画の対象区域

本計画の対象区域は、「居住の場の確保」「ふれあい・交流の場の確保」「まちの個性づくり」といった「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」で定めた基本方針の実現を見据えつつ、稲島東地区・高御堂南地区における新たな住居系市街地の整備や総合文化センターの跡地活用事業等も意識し、下図に示すとおり、「まちづくりの展開イメージ」で示した都市拠点（国府宮駅周辺）の区域を基本とした「国府宮駅を中心とする概ね半径 500m圏域」とします。

図 本計画の対象区域



# 第3章

## 喫緊のまちづくり課題の整理

我が国を取り巻く近年の社会経済情勢変化や国府宮駅周辺の状態変化を踏まえ、国府宮駅周辺で早急に取り組む必要のある喫緊の課題を整理します。

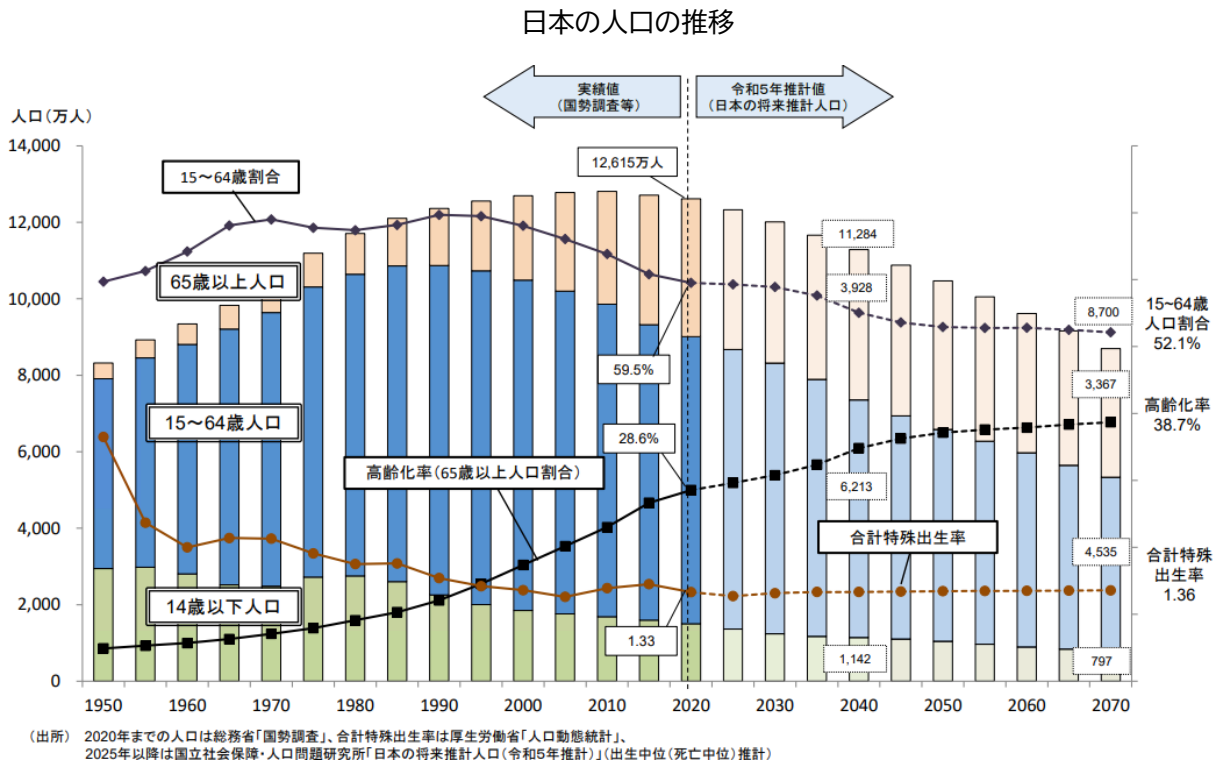
### 3-1 近年の社会経済情勢変化

#### (1) 人口減少、少子高齢化の進行

我が国の総人口は2008年（平成20年）の1億2,808万人をピークに、2011年（平成23年）以降は一貫して減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、2070年には9,000万人を割り込むと推計されています。

また、高齢化も進行しており、総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は、現在の約3割から、2070年には約39%まで上昇すると推計されています。

こうした状況から国では、持続可能で暮らしやすい地域社会を実現するために、高齢者や子育て世帯等が日常的な生活関連サービスを身近なエリアで享受しつつ、高次都市機能についても享受し得る地域づくりを重要課題の一つに挙げています。



出典: 令和6年度国土交通白書  
(国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口(令和5年推計)」の概要)

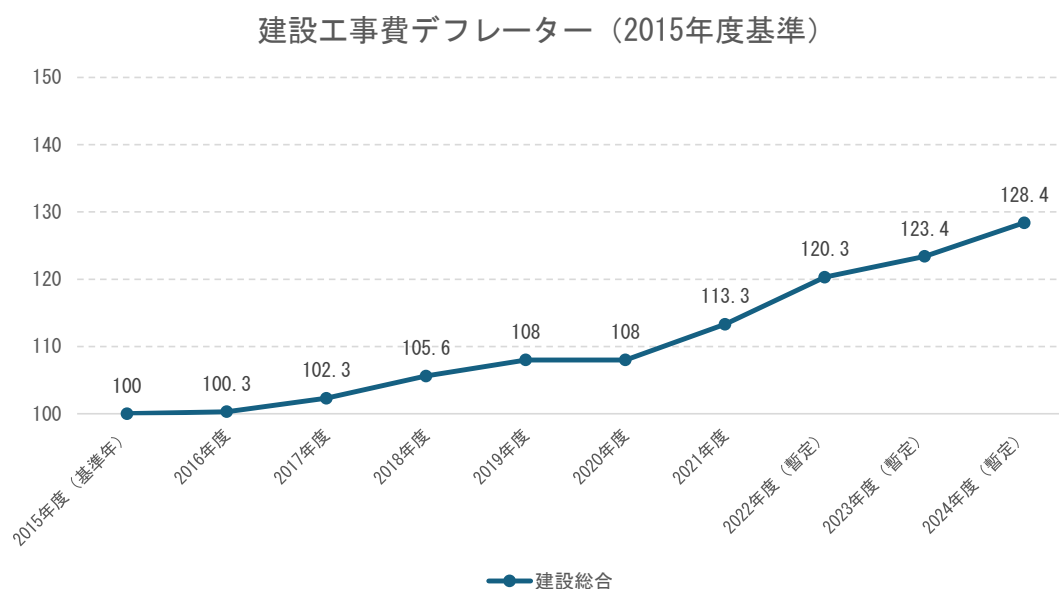
## (2) コロナ禍を契機とした生活行動の変化

2019年（令和元年）末から流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、人々の意識や価値観、行動に大きな影響を与えました。

2023年（令和5年）5月に感染症法上の位置づけが5類感染症に変更され、社会経済活動は正常化しましたが、国では、コロナ禍を契機とした生活の質への関心の高まりに対応し、魅力のある豊かな地域社会を形成していく上で、**多様な人々による交流や活動の促進、ゆとりとにぎわいのある空間の形成**など、人々が生活し、活動する生活空間の質的な向上を図ることが必要であるとしています。

## (3) 物価高騰等に伴う建設コストの上昇

近年、労務費や資材価格の上昇に伴う建設費の高騰が著しく、都市開発などの大型建設プロジェクトの見直しや中止が相次いでいます。限られた事業費の中で事業を成立させるため、事業計画の見直しが進んだ結果、都市の魅力の向上に支障が生じることも懸念されています。



資料：国土交通省総合政策局

※建設工事費デフレーターは、建設工事に係る「名目工事費額」を基準年度の「実質額」に変換する指標であり、過去の工事費と現在の工事費を比較する際に、物価の変動による影響を差し引いて、実際の工事費の変動率を示すために用いるもの

こうした状況から国では、中長期的な地域の賑わいの創出や魅力の向上を図るためには、必要な事業マネジメントを行った上で、**地域から真に求められる機能の導入や公共公益性の高い事業の着実な実施を促進すべき**としています。

また、金利の上昇や市場の不確実性の高まりも受けて、中期的に事業を支える観点から、**民間事業者が政策効果の高いプロジェクトに取り組みやすい事業環境を整えることも重要**であり、これを推進するための政策金融等のインセンティブの重要性も高まっています。

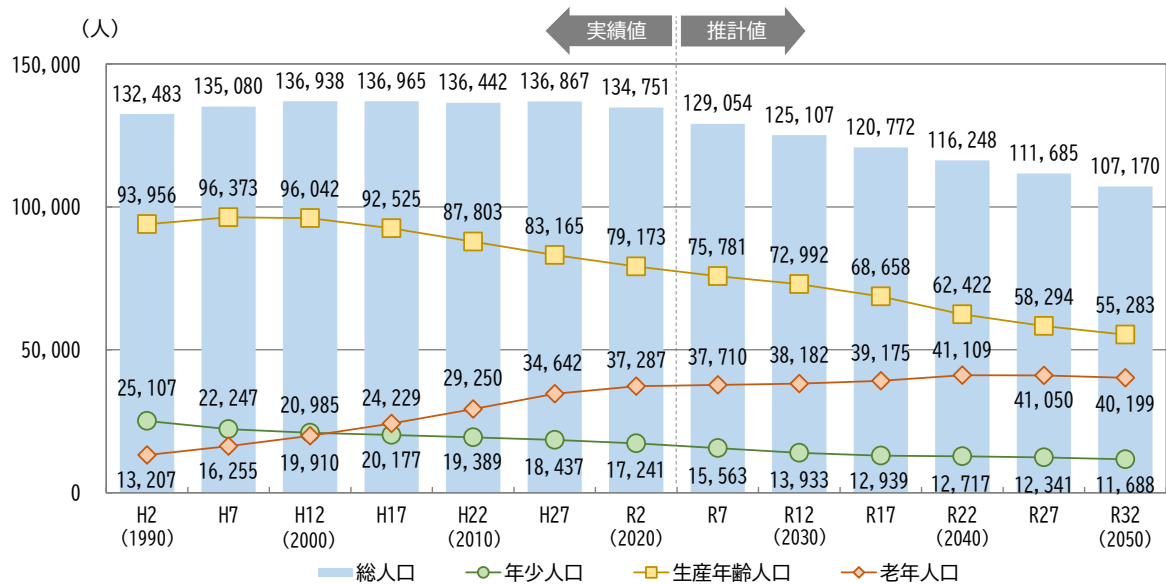
## 3—2 国府宮駅周辺の状況変化

近年の国府宮駅周辺の人口動向や交通状況、土地利用状況の変化をまとめます。

### (1)人口動向

本市の人口は、2005年（平成17年）までは増加していましたが、現在は人口減少・少子高齢化が進行しています。

本市の総人口及び年齢3区分別人口の推移

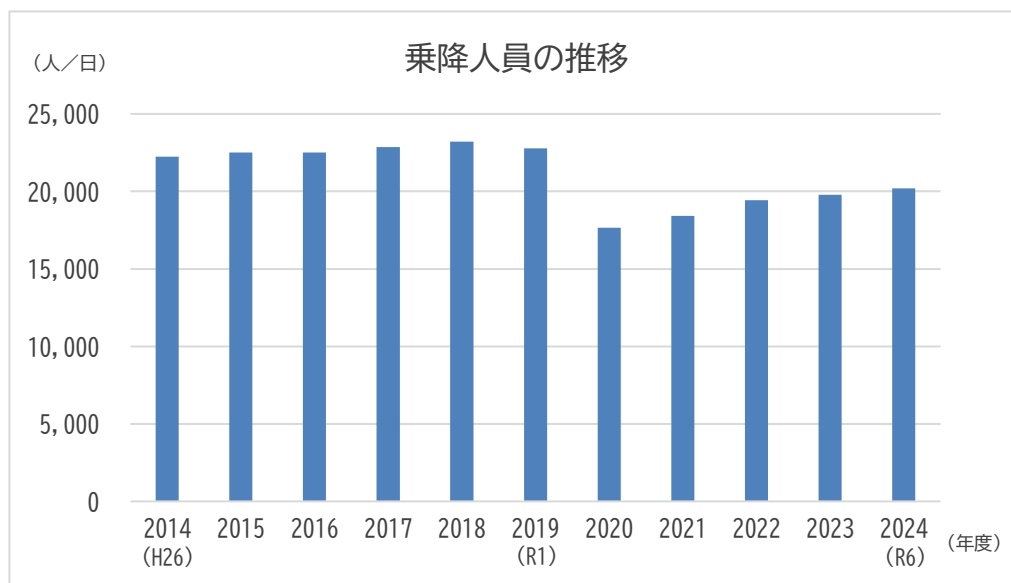


※総人口には年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

## (2)交通状況

国府宮駅の日平均乗降者数は、コロナ禍の影響で2020年度（令和2年度）に約1万8千人まで減少した後、2024年度（令和6年度）には約2万人まで回復しましたが、コロナ禍前の水準（約2万2千人）には戻っていません。



データ：名古屋鉄道株式会社

国府宮駅の日平均乗降者数はコロナ禍前よりも減少していますが、駅前広場では依然として顕著な交通混雑が発生しています。現在の駅前広場には一般車の乗降スペースが7台分ありますが、2025年（令和7年）12月に実施した交通実態調査では、最大で17台もの車が駅前広場に停車し、周辺道路においても乗降が行われている様子が確認されました。

西口駅前広場及び周辺道路の車両停車状況（2025年12月8日）

	停車台数	
	平均（17時～20時）	ピーク時（18時10分）
駅前広場内	12台	17台
周辺道路	3台	7台
合計	15台	24台

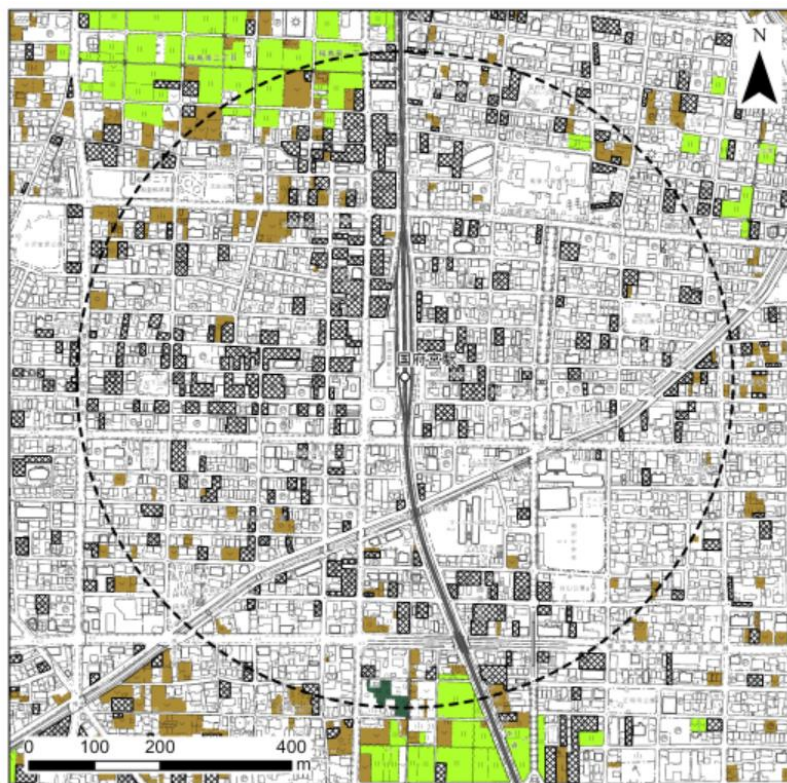


西口駅前広場(入口付近)の交通混雑の様子(2025年6月)

### (3)土地利用

国府宮駅周辺には都市的低未利用地（平面駐車場等）が広く分布しており、特に駅の西側でその傾向が見られます。2023年度（令和5年度）と2018年度（平成30年度）の分布状況を比較しても大きな変化は見られず、土地の高度利用はそれほど進んでいません。

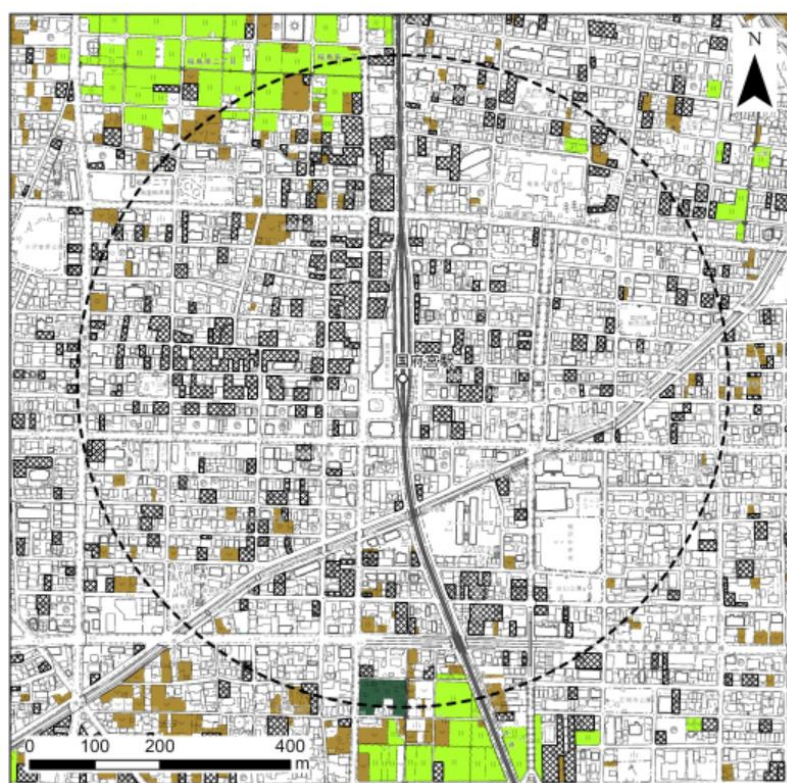
土地利用現況図（2018年度 都市計画基礎調査）



【凡例】

- 都市的低未利用地
- 田
- 畑
- 山林
- 平面駐車場等の空地
- 500m圏域

土地利用現況図（2023年度 都市計画基礎調査）



### 3—3 市民の声

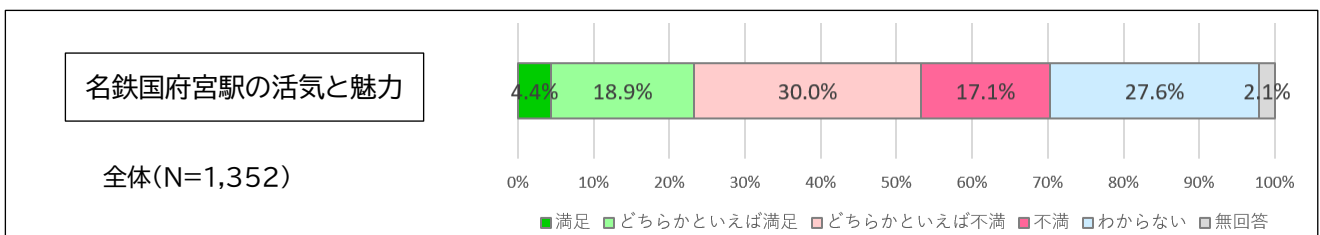
2016年（平成28年）12月に行った国府宮駅に関する市民・駅利用者アンケートでは、「駅前広場の利用のしやすさ」や「駅周辺の商業施設、飲食店の数や質」について、改善や充実を求める声が多く見られました。

重要度は高いものの満足度が低い項目（＝特に対応が求められている項目）	
市民：★	駅利用者：★
①名鉄名古屋本線の運行頻度について	★⑫国府宮駅周辺への車での行きやすさについて
②名鉄国府宮駅の施設の利用のしやすさについて	★★⑬歩行者や自転車が安全に利用できる道路について
③国府宮駅で利用できるバスの運行頻度について	★★⑭お年寄り、子ども、身体の不自由な人も不便や不安がなく歩ける道路について
④バス乗り場の利用のしやすさについて	★⑮国府宮駅周辺の商業施設の種類や商店数について
⑤タクシー乗り場の利用のしやすさについて	★⑯国府宮駅周辺の商業施設の魅力や質について
★★⑥車での駅前広場の利用のしやすさについて	★⑰国府宮駅周辺の飲食店の魅力や質について
★⑦国府宮駅周辺駐車場の利用のしやすさについて	⑱国府宮駅周辺の緑の多さについて
⑧国府宮駅周辺駐車場の駐車料金について	⑲国府宮駅周辺の街並みの景観について
⑨国府宮駅周辺全体としての駐車場の収容台数について	⑳国府宮駅周辺の文化施設・福祉施設等の生活に密着した公益施設の利用のしやすさについて
⑩国府宮駅周辺駐輪場の利用のしやすさについて	㉑国府宮駅周辺の治安について
⑪国府宮駅周辺全体としての駐輪場の収容台数について	㉒国府宮駅周辺で開催される祭りやイベントについて

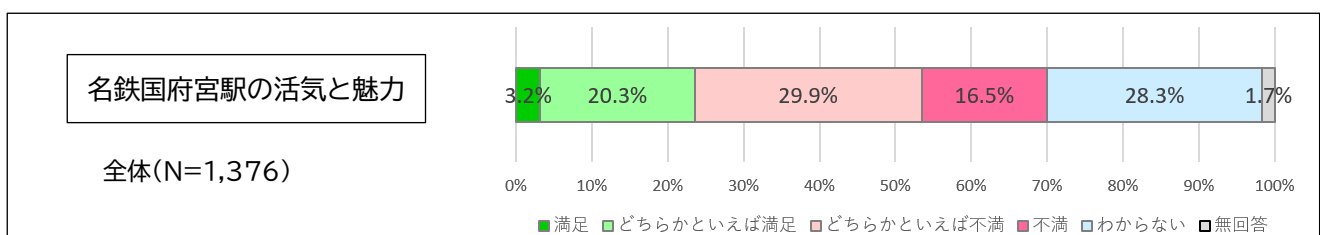
最新の市政世論調査（第27回）の「名鉄国府宮駅周辺の活気や魅力」についての満足度を見ると、「満足」「どちらかと言えば満足」が約24%であるのに対し、「不満」「どちらかと言えば不満」が約46%と、駅周辺の活気や魅力に対する不満の声が大きいことが分かります。

なお、従前の市政世論調査（第24回）の結果と比較しても、この状況は殆ど変わっていません。

#### 【第24回】2018年度(平成30年度)



#### 【第27回】2024年度(令和6年度)



## 3-4 喫緊のまちづくり課題の整理

近年の社会経済情勢変化や国府宮駅周辺の状況変化を踏まえ、国府宮駅周辺で早急に取り組む必要のある喫緊のまちづくり課題を以下に整理します。

### 課題①: 交通利便性の向上

コロナ禍を経て国府宮駅の乗降者数が減少した現在でも、依然として西口駅前広場では交通混雑が顕著にみられます。今後も引き続き、西口駅前広場の再整備や東口駅前広場の新設に取り組み、交通利便性の向上やバリアフリー化の推進を図る必要があります。

### 課題②: 駅ちか居住の促進

稲沢市では、人口減少・高齢化が進行しています。市の活気や市民の生活利便性の維持向上を図るには、名古屋駅からのアクセス利便性が高く、本市の玄関口である国府宮駅周辺に都市機能を集積するとともに、都市機能を支える居住を誘導し、歩いて暮らせるまちづくりを推進していく必要があります。

### 課題③: まちの魅力アップ

長期ビジョンで目指す「居住地として選ばれる都市」となるためには、市のブランドイメージを高め、まちの個性を磨き上げることが必要です。

尾張大國霊神社（国府宮）を始めとする駅周辺の歴史的・文化的施設との連携や活用を図りながら、植木・苗木の全国的な産地であり、豊かな自然を有する本市の”緑”を感じられるような歩いて楽しめるまちづくりを推進していくことが必要であると考えます。

なお、課題の解決に向けた取組みを進めるにあたっては、近年の急激な建設コストの上昇に留意する必要があります。

行政として優先的に取り組むべき内容を整理し、早期に着手すると共に、民間の投資を促すよう、効果的かつ多様なインセンティブを検討する必要があります。

# 第4章

## 目指すべき「まちの将来像」

「国府宮駅周辺まちづくり基本計画」で定めた「長期ビジョン（コンセプト及び基本方針）」を踏まえつつ、前章で整理した喫緊のまちづくり課題の解決に向け、国府宮駅周辺の「まちの将来像」を明確にするとともに、その実現に向けた進め方を整理します。

### 4-1 「エリアの分類」と「軸の設定」

#### 【エリア】

現在の国府宮駅周辺の土地利用の状況等を踏まえ、本計画の対象区域を大きく3つのエリアに大別します。

#### 駅前空間エリア

駅利用者が集う交通結節点、賑わいの中心地である「**駅及び駅前広場とその近接の街区**」

#### 駅西エリア

住宅や駐車場、商店や飲食店等が多く立地し、人の動きが活発な「**名鉄名古屋本線の西側エリア**」

#### 駅東エリア

尾張大國霊神社(国府宮)や参道、総合文化センター跡があり、その周囲に閑静な住環境が形成されている「**名鉄名古屋本線の東側のエリア**」

#### 【軸(主要な人の流れ)】

新たな住居系市街地と駅を結ぶ動線、国府宮駅周辺の歴史的・文化的資源への誘導等を意識し、将来的に主要となる人の流れ(軸)を設定します。

#### 賑わい・連携軸

新たな住居系市街地(稲島東地区、高御堂南地区)と駅を繋ぐ「**(都)奥田線**」

#### 歴史・文化軸

駅から尾張大國霊神社(国府宮)、文化の丘(市民会館、図書館等)、文化の杜(稲沢公園、美術館等)へと向かう経路「**参道や大江川沿いの散策路等**」

前章で整理した喫緊のまちづくり課題の解決に向けそれぞれの「エリア」や「軸」毎に必要な取組み方針をまとめます。

## 4-2 まちの将来像

### 駅前空間エリア

- ・駅の西口では、既存の駅前広場を安全で使いやすい姿に再整備し、交通結節点としての機能強化を図ります。また、市民や駅利用者がゆっくり滞在することができる空間を確保します。
- ・駅の東口では、駅前広場を新設し、駅利用者の乗降空間を確保すると共に、尾張大國霊神社(国府宮)の玄関口として歴史や文化を感じられる修景整備を検討します。
- ・駅及び駅前広場に近接する街区では、商業、飲食等様々な機能が複合化された施設立地、市民や来訪者が集い交流できる場づくりを促進します。
- ・駅舎と東西の駅前広場、その隣接する街区を繋ぐデッキを整備し、バリアフリーに配慮した立体的な歩行者ネットワークを形成します。

### 駅西エリア

- ・エリア内に点在する低未利用地(駐車場等)の集約化や高度利用を促進することで、厚みのある市街地を形成します。
- ・商業、飲食、医療、子育て支援等、様々な生活機能を誘導することで、駅近くで子育て世代から高齢者まで誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します。

### 賑わい・連携軸

- ・新たな住居系市街地(稲島東地区、高御堂南地区)と駅を繋ぐ(都)奥田線では、将来の交通需要の高まりに対応するため、歩行者や自転車に安心、快適に通行できるよう配慮した道路空間づくりを進めます。
- ・沿道には様々な商業機能を誘導することで、賑わいを生み出します。

### 駅東エリア

- ・閑静な住宅地の中に尾張大國霊神社(国府宮)や中高記念館、総合文化センター跡といった歴史的・文化的施設がある現在の落ち着いた雰囲気を維持しつつ、イベントの実施等を通してまちの魅力を発信します。

### 歴史・文化軸

- ・駅から尾張大國霊神社(国府宮)や対象区域の外にある文化の丘(市民会館、図書館等)、文化の杜(稲沢公園、美術館等)へと向かう経路では、まち全体に一体感を生み出すため、歩行者が快適に目的地に向かえるよう配慮した道路空間づくりを進めます。

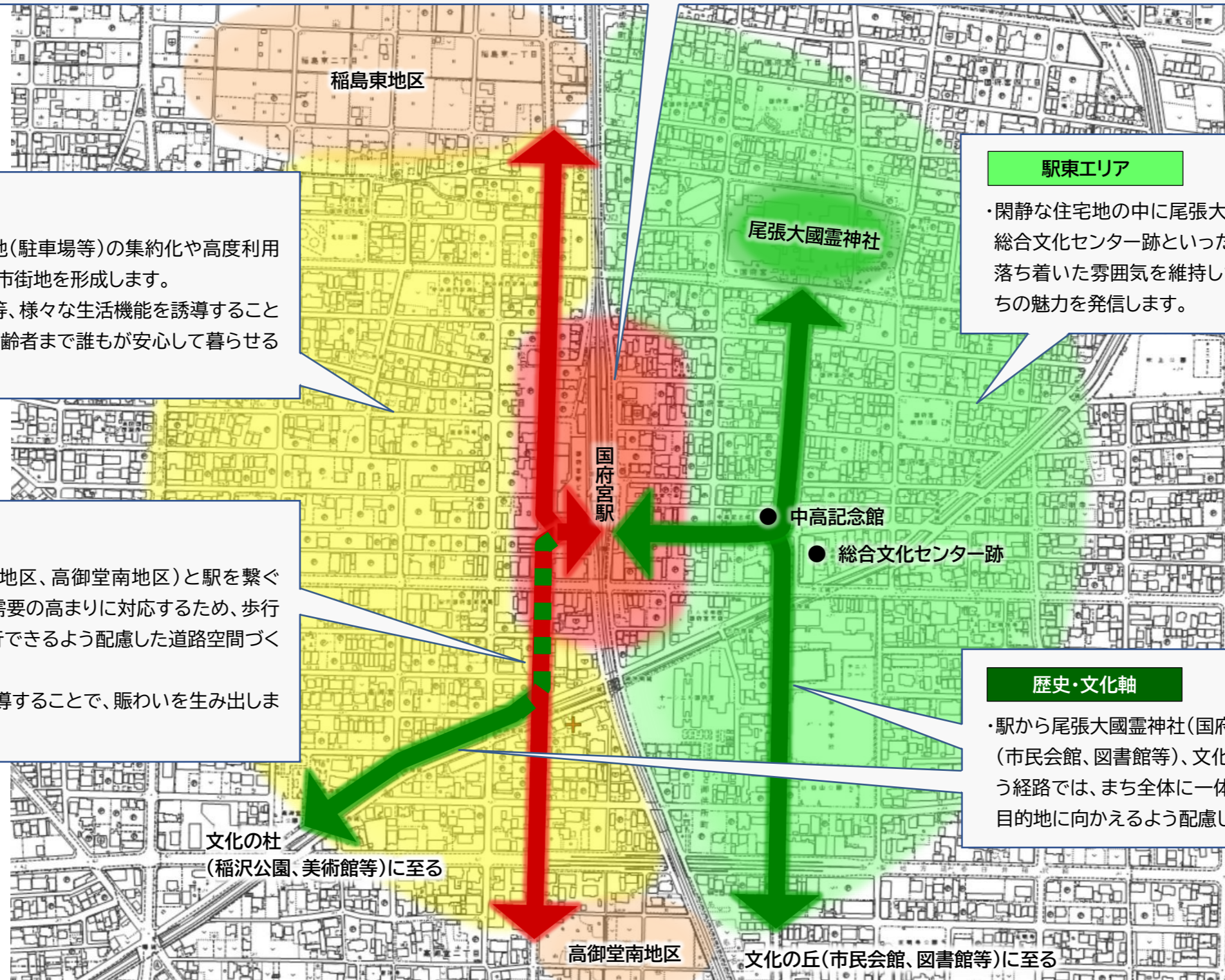
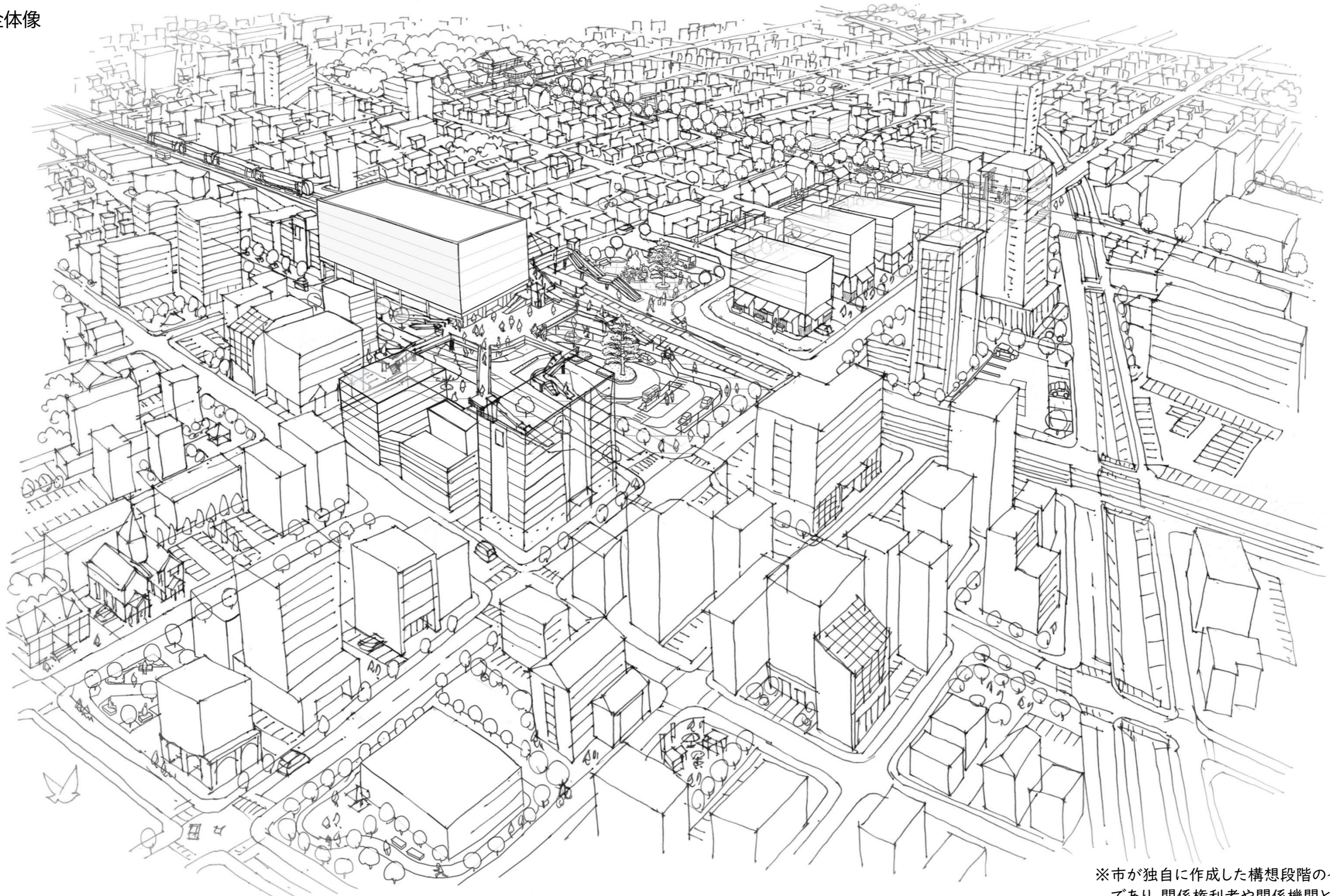


図 まちづくり構想図

## 【 将来イメージ 】

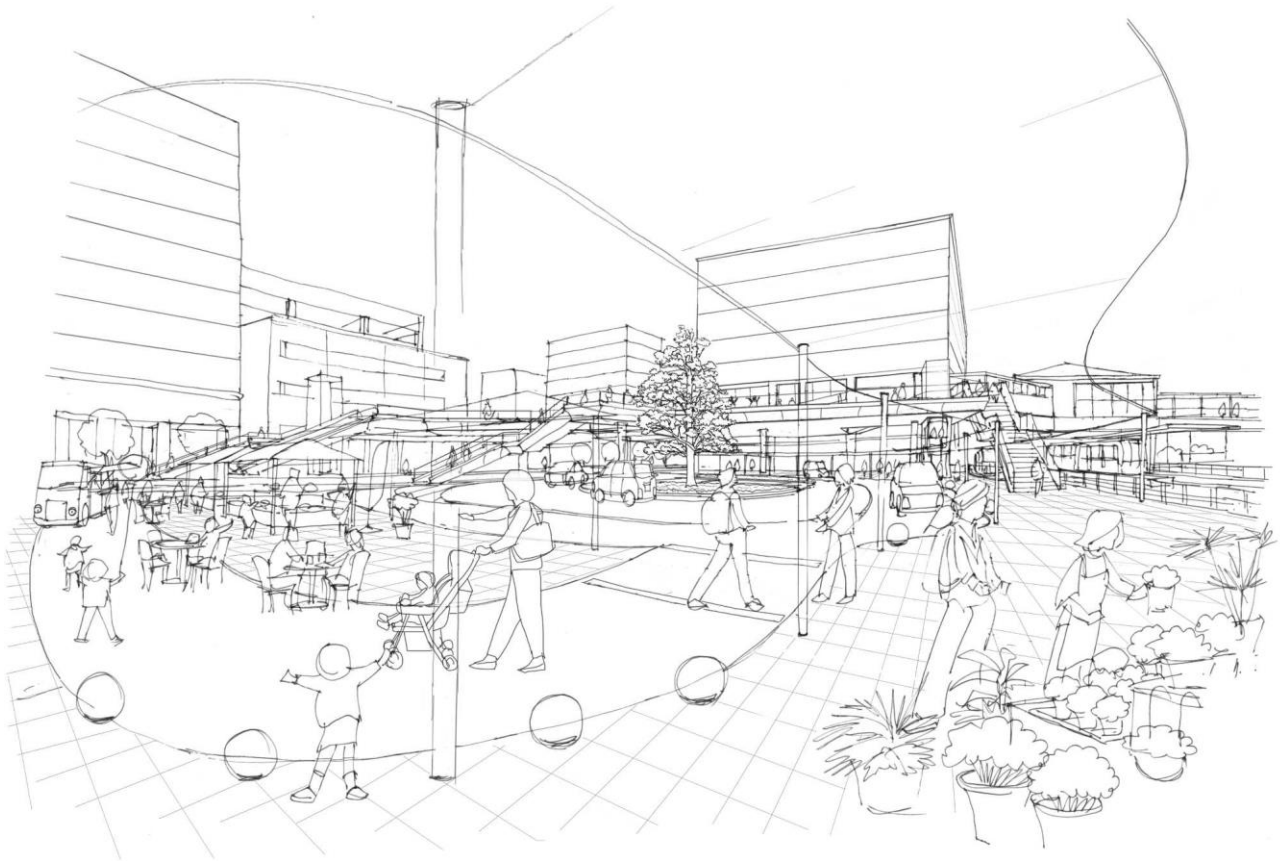
### ① 全体像



※市が独自に作成した構想段階のイメージであり、関係権利者や関係機関との協議等を経て確定したものではありません。

## ② 「駅前空間エリア」のイメージ

### < 西口駅前広場（イベント開催時）のイメージ >



※市が独自に作成した構想段階のイメージであり、関係権利者や関係機関との協議等を経て確定したものではありません。

- 現在の駅前広場を安全で使いやすい姿に再整備して、交通結節点としての機能強化を図ります。
- 市民や駅利用者が滞在できる空間やイベントスペースを確保して、駅前に賑わいを生み出します。

< 東口駅前広場のイメージ >



※市が独自に作成した構想段階のイメージであり、関係権利者や関係機関との協議等を経て確定したものではありません。

- バリアフリーに配慮した駅前広場を整備し、市民や駅利用者が滞在できる空間を確保して、駅前に賑わいを生み出します。
- 尾張大國霊神社(国府宮)の玄関口として、歴史や文化を感じられる修景整備を検討します。

### ③「賑わい・連携軸」及び「駅西エリア」のイメージ

< (都)奥田線周辺のイメージ >



※市が独自に作成した構想段階のイメージであり、関係権利者や関係機関との協議等を経て確定したものではありません。

- 新たな住居系市街地(稲島東地区、高御堂南地区)と駅を繋ぐ(都)奥田線では、歩行者や自転車が安心、快適に通行できるよう配慮した道路空間づくりを進めると共に、沿道に様々な商業機能を誘導することで賑わいを生み出します。
- (都)奥田線の周辺(駅西エリア)では、低未利用地の集約化や高度利用を促進することで、厚みのある市街地を形成します。

#### ④「歴史・文化軸」及び「駅東エリア」のイメージ

##### < 尾張大國霊神社(国府宮)の参道周辺のイメージ >



※市が独自に作成した構想段階のイメージであり、関係権利者や関係機関との協議等を経て確定したものではありません。

- 歩道の整備や沿道への商業、飲食機能の誘導等により、駅から尾張大國霊神社(国府宮)まで歩いて快適に向かえる空間をつくり、まちの魅力を高めます。
- 周辺(駅東エリア)は、現在の落ち着いた雰囲気を持続しつつ、参道や中高記念館といった歴史的・文化的施設を活用したイベントの実施等を通して、まちの魅力を発信します。

## 4-3 まちづくりの進め方

国府宮駅周辺再整備は、本市の人口減少に歯止めをかけるため、リニアインパクトを見据え、駅周辺機能の強化を図るものです。

まちづくりの実現に向けた取組みには、行政が主体的に行うこと、市民・民間事業者が主体的に行うこと、双方が協働して行うことがあります。国府宮駅周辺では、まずは行政が先導的に取組みを進めることで、喫緊のまちづくり課題の解決を図ると共に、まちづくりの機運を高めていきます。

前章で整理したように、コロナ禍を経て国府宮駅の乗降者数が減少した現在でも、駅前広場では依然として顕著な交通混雑が発生しており、その影響が周辺道路にも及んでいます。駅周辺の交通便利性を向上させるため、まずは西口駅前広場の整備を進め、交通結節点としての機能強化を図ります。並行して、厚みのある市街地の形成に向けて、民間事業者等による土地の利用の共同化・高度化等を促進させるための手法についても検討していきます。

(まちづくりの進め方のイメージ)

